

## システムイノベーションセンター 2026年度第1回理事会 議事録

**開催日時**：2026年3月6日（金） 13:00～14:30

**開催方法**：実会場（ダイワロイネットホテル西新宿 会議室

東京都新宿区西新宿6丁目12-39）

およびオンライン出席による審議・決議

**出席**： 理事 浦川伸一、松本隆明、青山和浩、遠藤薫、齊藤裕、  
木谷昭博（オンライン）、鹿子木宏明 （7名）

監事 船橋誠壽（オンライン）、新谷勝利

事務局および陪席 出口光一郎、久保忠伴、中野一夫

**欠席**： 理事 藤田政之、島田太郎、服部正太、久間和生、岡本浩（5名）

**配布資料**： 2026年度第1回理事会議事次第

### <議事>

#### 開会：

- ・定足数を満たしており、理事会は成立することが確認された。
- ・最初に、高林理事が退任され、現在、12名の理事、2名の監事にて、SICの役員の体制が組み立てられていることが報告された。
- ・浦川センター長より、第1回の理事会の開催に当たっての挨拶があり、浦川センター長を議長として、議事を進めた。

#### 議題1 「SICの現況・2025年度の活動実績」

- 松本実行委員長より、2025年度の活動実績や主要イベント（シンポジウム、経営者研修講座、システム人交流会、SICフォーラム等）について詳細な報告があった。
  - **第三次中期計画の策定**：2025年度に三年ごとに制定しているSIC中期計画の第三次計画を策定し、人間中心の社会の豊かさを創成するシステム4.0を提唱した。
  - **主要イベントの開催**：2025年度はSICシンポジウム2025、第3回経営者研修講座、第2回システム人交流会などを開催し、各イベントで戦略提言の成果発表やパネルディスカッションを実施した。
  - **分科会活動と報告書**：システムオブシステムズ分科会が最終報告書をまとめ、特にCPHS（サイバーフィジカルヒューマンシステム）アーキテクチャの必要性を強調した。
  - **広報活動と会員状況**：SICニューズレターや論説集の発行、SNSやYouTubeの活用など広報活動を継続した。

## 議題2 「2025年度の会計（決算）の報告」

- 議長より、2025年度の会計決算については、同日午前で開催された2025年度SIC定時社員総会において、承認されていることが報告された後、松本総務担当理事より、2025年度の会計決算について詳細の説明があり、新谷監事より監査結果が報告された。
  - **収入・支出の状況**：会員企業の退会や新規加入の停滞、人材育成講座の未実施等により収入が減少した。一方、支出も特別調査費やイベント費用の縮小で予算より減少した。
  - **最終損益と補填**：最終的に120万円の赤字となったが、繰越金から補填する形で対応した。
  - **監査報告**：新谷幹事より、会計執行は概ね適正に行われているとの監査結果が報告された。

## 議題3 「2025年度の事業計画・予算方針について」

- 2026年度の事業計画の大枠は、午前の総会にて了承を得ていることが紹介された後、松本総務担当理事より2026年度の事業計画・予算方針の説明があった。AIエージェントや量子技術、サーキュラーエコノミー等の新分科会設立の計画、人材育成講座の再開などの提案があった。
  - **戦略提言の社会実装推進**：2025年度に策定した戦略提言の成果を社会に浸透させるため、外部パートナーとの連携や共同フォーラム開催、省庁等への働きかけを進める方針が示された。
  - **新分科会の立ち上げ**：AIエージェント、量子技術、サーキュラーエコノミー等のテーマでシーズ思考による分科会を新設し、社会への影響や課題を議論する計画が説明された。
  - **人材育成講座の再開**：昨年度未実施だった人材育成講座を体系的に再開し、SICの既存コンテンツも活用しながら継続的に実施する方針が示された。
  - **広報・イベント活動の継続**：ニュースレターやSNS、SICフォーラム等の広報活動やイベント開催を継続し、活動の認知拡大を図ることが確認された。
- AIの進展に関連したシステム変革に関し、以下の議論がなされた。
  - AIエージェントの業務自動化やシステム変革、人間中心設計、相互運用性、現場事例、国際競争力、暗黙知の活用等について活発な議論があった。
    - **AIエージェント活用の現場事例**：木谷理事より、自社のAIトランスフォーメーションプロジェクトの事例の紹介があり、業務自動化による新

たな価値創造や現場主導の業務変革の実践状況を説明した。

- **人間中心設計とヒューマンインザループ**: 齊藤理事より、AI 活用時のヒューマンインザループの重要性、システム設計における人の役割や介入、緊急停止機能の必要性などの問題提起がされた。
- **相互運用性と標準化の課題**: 鹿子木理事より、AI エージェント導入時のセマンティックスレイヤーによる相互運用性確保や、業務連携時の障害・課題、標準化の必要性について意見交換が行われた。
- **暗黙知と差別化要素**: 浦川センター長より、日本の製造現場における暗黙知や組の技の AI への組み込みの難しさ、国際競争力維持のための差別化要素の重要性が指摘された。

#### 議題 4 「2026 年度 実行委員の承認」

- 実行委員会には、SIC の根幹としての活動の企画・実行を担ってもらっており、今年度はすでに 2 回の実行委員会を開催して諸活動に参画しているが、定款では、実行委員は理事会により選任されることが説明され、2026 年度の実行委員の選任が提案された。
- 松本実行委員長より、2026 年度の実行委員 19 名の選任案の説明があり、承認された。
  - **実行委員体制の説明**: 新たにロジスティードや個人会員が加わり、19 名体制で実行委員会を運営することが説明された。

#### 議題 5 「2026 年度SICの活動について」

- 自由討論にて、以下の課題が議論された。
- **会員数減少と持続的活動基盤の課題**: 会員数減少傾向と持続的活動基盤の確保について意見が交わされ、今後の組織のあり方や会員拡大策が議論された。
  - **会員拡大と課題解決の方向性**: 現場課題の抽出や業界横断的なフレームワーク・システム設計の必要性、会員企業の増加に向けたマーケティングや議論の場づくりが提案された。
  - **DX 推進と業務変革の必要性**: 現場課題解決だけでなく、業務全体のやり方やルールを抜本的に見直し、AI を活用した業務変革・自動化を推進する重要性が強調された。
  - 会員数減少傾向に対する持続的活動基盤の確保策について、今後も理事会で前向きな検討を行い、具体的な対応案を提示する。
- **社会科学的視点と今後の活動展開**: 遠藤理事より、技術・産業分野に閉じず社会科学的視点を取り入れたシステム変革や、今後の活動展開の必要性について意見が述べられ、関連した議論があった。

- **社会科学的視点の重要性:** 社会学や政治学などの視点を含めて、世界的なトランスフォーメーションの動向やシステム変革を根本的に考える必要性が指摘された。
- **教育システムの変革:** AI の進展により大学教育の在り方や知識伝達の方法論も大きく変化し、広い視野や考え方のコツを教えることが今後重要になるとの意見が出された。
- **外部連携と分科会活動の推進:** OEPC、RRI、IPA-DADC 等の外部団体との連携や、分科会活動への会員企業の参加促進、相乗効果の創出について、意見が出された。
  - **外部団体との連携:** OEPC、RRI、DADC 等の団体と連携し、サーキュラーエコノミーや物流分野での分科会活動を推進し、会員企業の参加を促す方針が示された。
  - 会員企業への参加呼びかけの具体策を検討し、実施計画を作成する。
  - AI エージェントや新技術の社会実装に向けた分科会の設立と、議論すべき視点（人間中心、リスク、安全性、相互運用性等）を整理し、分科会企画案をまとめる。
- **AI エージェント活用のフレームワーク標準化:** AI エージェントを活用した業務プロセス変革やフレームワーク標準化の具体的な事例ややり方を調査し、AI エージェントや新技術の社会実装に向けた分科会の設立と、議論すべき視点（人間中心、リスク、安全性、相互運用性等）を整理し、分科会企画案をまとめる。

## 閉会

以上を以て、2025 年度第 1 回 SIC 理事会を終了した。

(以上)